

平成30年度 建設界の担い手確保・
育成に関する取り組み

- ① 平成30年度の部会活動総括 P 1
- ② 各部会の取り組み報告 P 4

平成31年 1月29日

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会

平成30年度 各県部会の開催状況

- 平成30年6月に第1回各県（新潟、富山、石川）部会を開催。
平成30年度に予定している活動や新たな取り組みについて情報を共有し、現状の課題等に関する意見交換を行った。
- 平成30年12月に第2回各県（富山、石川）部会を開催。
平成30年度の活動の取り組みと現状の課題等の情報共有と、平成31年度に向けた、活動内容・連携協力体制等について意見交換を実施した。

平成30年度 第1回 県部会 開催概要

【新潟県部会】平成30年6月15日（金）10:00～12:00

【富山県部会】 7月 5日（木）10:00～11:30

【石川県部会】 6月11日（月）10:00～11:45

【開催地】北陸地方整備局、富山河川国道事務所、金沢河川国道事務所

平成30年度 第2回 県部会 開催概要

【富山県部会】平成30年 12月27日（木）10:00～11:30

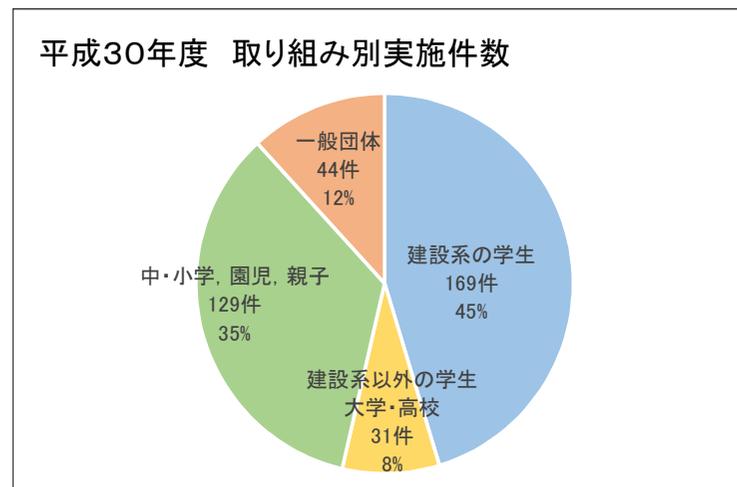
【石川県部会】 12月17日（月）10:00～11:45

【開催地】富山河川国道事務所、金沢河川国道事務所

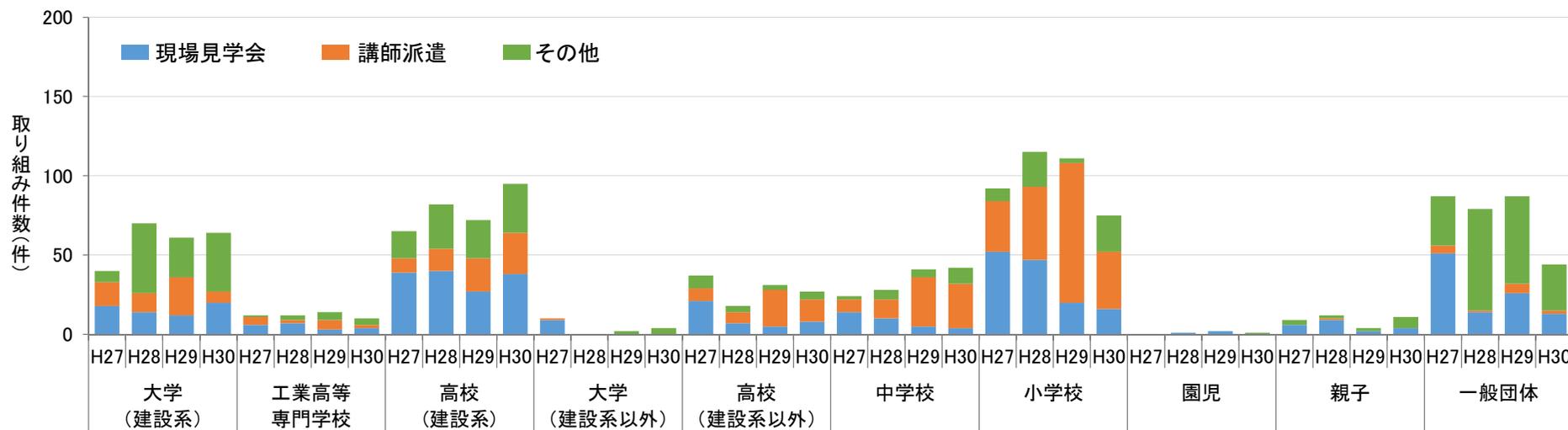
平成30年度 建設界の担い手確保・育成に関する取り組みについて

- ・平成30年度において、各機関の活動数は373件であり、そのうちの54%が他機関・団体と連携し行われている。
- ・対象者別では、建設系の学生を対象とした取り組みが最も多く実施されており、全体の45%を占めている。
- ・また、前年度(平成29年度)と比較すると、建設系の高校を対象とした取り組みが増加している。

	建設系の学生対象	建設系の学生以外を対象			合計	各機関で連携・合同で取り組んだ件数
		大学 高校	中・小学 園児・親子	一般 団体		
H27年度	117 (31%)	47 (13%)	125 (33%)	87 (23%)	376 (100%)	164 (44%)
H28年度	164 (39%)	18 (4%)	156 (37%)	79 (19%)	417 (100%)	171 (41%)
H29年度	147 (35%)	33 (8%)	158 (37%)	87 (20%)	425 (100%)	146 (34%)
H30年度	169 (45%)	31 (8%)	129 (35%)	44 (12%)	373 (100%)	201 (54%)



平成30年度 対象別取り組み件数



平成30年度 建設界の担い手確保・育成に関する取り組みについて

【留意事項】

- ・本資料は、各機関・団体で、対象毎にどのような取り組みを行ったのか、幅広く事例を集め、各機関・団体が次年度以降の取り組みを考えるうえでの参考とすることを目的に整理したものです。
- ・実施件数は概ねの傾向を把握するために集計したものです。（※各機関・団体の判断により取り組みを分類し、報告頂いているため、分類の不整合を含みます。）

	平成27年度				平成28年度				平成29年度				平成30年度				
	現場見学会	講師派遣	その他	合計	現場見学会	講師派遣	その他	合計	現場見学会	講師派遣	その他	合計	現場見学会	講師派遣	その他	合計	
大学(建設系)	18	15	7	40	14	12	44	70	12	24	25	61	20	7	37	64	
工業高等専門学校	6	5	1	12	7	2	3	12	3	6	5	14	4	2	4	10	
高校(建設系)	39	9	17	65	40	14	28	82	27	21	24	72	38	26	31	95	
大学(建設系以外)	9	1	0	10	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	4	4	
高校(建設系以外)	21	8	8	37	7	7	4	18	5	23	3	31	8	14	5	27	
中学校	14	8	2	24	10	12	6	28	5	31	5	41	4	28	10	42	
小学校	52	32	8	92	47	46	22	115	20	88	3	111	16	36	23	75	
園児	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	2	0	0	1	1	
親子	6	0	3	9	9	1	2	12	2	0	2	4	4	0	7	11	
一般団体	51	5	31	87	14	1	64	79	26	6	55	87	13	2	29	44	
合計	一般団体を含む	216	83	77	376	149	95	173	417	102	199	124	425	107	115	151	373
	一般団体を除く	165	78	46	289	135	94	109	338	76	193	69	338	94	113	122	329

- 北陸地方における建設界の担い手をめぐる現状や課題に関する認識を共有し、建設界の担い手不足に対し、建設関係団体、教育機関、関係行政機関等が一体となって、担い手の確保・育成の取り組みを推進することを目的として、平成26年10月3日北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会を設立。
- 平成30年度の活動を推進するため、新たな取り組みの実施、取り組みの展開について検討。

開催概要

【新潟県部会】平成30年6月15日（金）10:00～12:00

〔会場〕北陸地方整備局 4F会議室

〔出席機関〕

〔行政〕北陸地整、新潟労働局、新潟県土木部・教育委員会、新潟市

〔建設産業〕日建連北陸支部、新潟県建設業協会、建設コンサルタツ協会北陸支部、新潟県測量設計業協会、新潟県地質調査業協会、日本道路建設業協会北陸支部

〔教育〕新潟大学、長岡技術科学大学、長岡工業高等専門学校、新潟工業高校、新発田南高校

△

新潟県部会開催状況



検討結果

平成30年度は、担い手協議会の各組織が連携して合同企業セミナー（仮称）を実施するなど、各大学・建設系高校に対する取り組みを強化すると共に、「建設業と繋がり無し学生（他分野）・生徒・小中学生・園児」に対しても、建設業の魅力を発信するなどの取り組みを引き続き進める。

意見等

- ①合同企業セミナー等における情報発信は、建設業の魅力、建設業における測量・調査・施工等の役割分担、県内就職のメリットPRなどが効果的である。
また、情報発信に際しては、大学と高校、学年毎でも認識が違うことから、それらを意識しつつ、学校側の事情や要望等を加味しながら実施していくことが望まれる。
- ②高校生の建設分野の新規入職者について、普通学科からの入職も多いことから、傾向をデータ等で確認しつつ、普通学科に対する取り組みも進めていく必要がある。
- ③建設分野の各学校に対する現場見学会等の取り組みは、各学校において漏れなく取り組みが展開出来きているかを、担い手協議会でチェックしていくことが望ましい。



北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 富山県部会 (H30.7.5) 開催概要

- 今年度第1回目となる**富山県部会を平成30年7月5日(木)に開催**。昨年度の協議会での課題を議論し、本年度の体制・活動予定等について情報を共有した。
- 意見交換では、教育機関より**県外出身者の県内の県内定着の取組**、業界各機関より**富山大学都市・デザイン学科との協力や今後の活動に向けた提案**等があった。
- H30も引続き、**県内産学官の関係者の連携のもと活動を進めていくことで合意**。

開催概要

日時 平成30年7月5日(木) 10:00~11:30

会場 富山河川国道事務所 3F大会議室

構成機関(順不同)

【行政】北陸地整建政部/富山河川国道事務所、富山労働局、富山県土木部/教育委員会

【教育】富山大学、富山県立大学、富山工業高校、桜井高校、高岡工芸高校、南砺福野高校

【業界】日建連北陸支部、富山県建設業協会、建設コンサルタツ協会北陸支部、富山県測量設計業協会、富山県地質調査業協会、日本道路建設業協会北陸支部

【オブ】黒部河川事務所、立山砂防事務所、利賀ダム工事事務所、伏木富山港湾事務所

会員からの主な発言

- ・建設系以外の学生などにも、業界に入りやすくしていく必要がある。
- ・測量業は20代、30代が少ない。測量設計の業務内容を知る機会が減少しているため。高校生等にPRが必要。
- ・建設関係に対する魅力が上がってきている。今後もPRが必要。
- ・現場見学会に参加し、業界に対して魅力を感じている生徒もいる。生徒により多くの情報を与えてほしい。
- ・進路の中で、求人に対し送り出す生徒の数が足りないのであれば、方向性を変える必要がある。分析が必要。

開催状況



北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 富山県部会 (H30.7.5) 開催概要

建設工業新聞 (6 面)
平成30年7月6日(金) 朝刊

産学官の連携で魅力発信

担い手確保・育成推進協議会

県部会開く

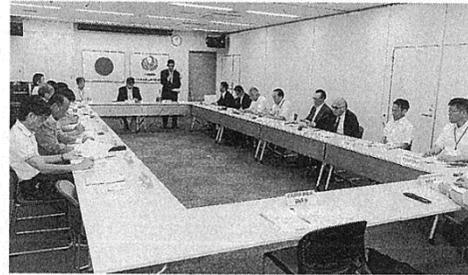
建設界の担い手確保対
策について県内の建設関
係団体や教育機関、行政
機関らが一堂に会して話
し合う「北陸建設界の担

い手確保・育成推進協議
会」富山県部会(部会長
・福濱方哉北陸地方整備
局富山河川国道事務所
長)の会合が5日、同事

務所で開かれた。昨年度
の活動状況や今年度の活

動計画について情報共有
したほか、今後も産学官
が連携して取組を進める
ことを確認した。

冒頭、福濱部会長が
「県部会では建設系の学
生のみならず、保護者に



活動予定を確認した県部会の会合

も建設界の魅
力を理解して
もらおうと入
職促進の取組
を進めてき
た。今後も産
学官が連携し
て建設界の魅
力を発信し、
建設界に対す
る好印象を醸
成したい」と
あいさつ。

議事では、
事務局が昨年

度の活動状況を説明。新
たな取組として、担い手
確保のイベントカレンダー
を作成し、HPで公開
することが報告された。

今年度の活動予定を各代
表者が説明し、現場見学
会や出前講座など、これ

までの取組を継続・拡大
する方針が示された。今
年度開設した富山大学都

市・交通デザイン学科へ
の支援・協力を行ってい
く計画も紹介。

意見交換では、高校側
が進路状況を説明し、
「建設業への就職は増え
ており、担い手確保への
取組成果が出ている」、
大学側は、「県外の出身
学生を県内に定着させる
仕組みづくりに取り組み

たい」、行政側は、「建
設業の魅力をさらに発信
する」の方針を示した。
富山労働局は、建設業の
求人倍率が全産業で最も
高いことを報告し、ハロ
ーワーク富山に建設・運
輸業の専門コーナーを設
け、バックアップしてい
ることを説明した。

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 富山県部会 (H30.12.27) 開催概要

- 平成30年12月27日に**第2回富山県部会を開催し、各機関のH30年度取組状況の報告・次年度取組・連携協力体制について意見交換を実施した。**
- **建設系企業への就職のために、働き方改革の必要性や生徒の進路に影響を与える保護者への取組の充実等の課題があがった。**
- **担い手の県内定着に向け、県外からの学生へ富山の魅力を理解してもらうことも重要等の意見が出された。**
- **引き続き、産学官の関係機関の連携のもと平成31年度も取組を進めていくことで合意した。**

開催概要

日時 平成30年12月27日 (木) 10:00~11:30

会場 富山河川国道事務所 3F大会議室

構成機関 (順不同)

【行政】北陸地整建政部/富山河川国道事務所、富山労働局、富山県土木部/教育委員会
【教育】富山大学、富山県立大学、富山工業高校、桜井高校、高岡工芸高校、南砺福野高校

【業界】日建連北陸支部、富山県建設業協会、建設ITカンパニー協会北陸支部、富山県測量設計業協会、富山県地質調査業協会、日本道路建設業協会北陸支部

【オブ】黒部河川事務所、立山砂防事務所、利賀ダム工事事務所、伏木富山港湾事務所

会員からの主な発言

- ・ 県内の求人に対し送り出す生徒の数が不足している。県外出身学生を県内に定着させる施策が必要。
- ・ 生徒への技能講習への参加希望者が多い。生徒が参加しやすい環境の整備が必要。
- ・ 担い手確保、育成のため、産学官共同した働き方改革への取組を実施する必要がある。
- ・ 女性技術者を増やすために、待遇や福利厚生が大事。
- ・ 建設フェアは初の富山開催となるので期待している。

開催状況

部会長挨拶



意見交換状況



北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会 富山県部会 (H30.12.27) 開催概要

建設工業新聞 (5 面)
平成30年12月28日(金) 朝刊

『建設業界 担い手確保の取り組み』に関する報道
局名 KNB (日本テレビ系列)
日時 平成30年12月27日(木) 15:50 (約1分)

建設界の魅力発信を 担い手確保・育成推進協 県部会開く

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会富山県部会が、福井県福井市で27日、川園道事務所が27日、同事務所大会議室で開かれ、19年度の活動予定など意見交換した。

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会富山県部会が、福井県福井市で27日、川園道事務所が27日、同事務所大会議室で開かれ、19年度の活動予定など意見交換した。

福井県福井市で27日、川園道事務所が27日、同事務所大会議室で開かれ、19年度の活動予定など意見交換した。



建設界の担い手確保へ意見を交わした推進協議会

た福井県部会は「今部会・生徒のみならず、広くでは土木・建設系の学生・若者や保護者にも建設界の魅力を理解してもらおうと、様々な取り組みを進めてきた」として、「産学官が連携のもと、建設界の持つ魅力を発信していくことで好印象を醸成し、担い手不足に対応していきたい」との考えを示した。議事では、各団体・機関から今年度の活動と19年度の活動予定が示された。

19年度も建設系高校での講座や見学会、県内の大学での連続講座、高校

生や大学・専門学校生の学校関係者からは、専門工場の出前講座によって、生徒が「世の中」にどんな仕事があるかと認識する機会になったなど、感謝があった。



(ナレーション)
人手不足に悩む建設業界の担い手を確保しようと、富山県で今日、関係機関による協議会が開かれ、企業と学生の意見交換などの取り組みが報告されました。



(ナレーション)
この「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会」は、建設業界で、若者の就職の減少などにより人手不足が進む中、担い手確保に連携して取り組もうと、2014年に建設関係団体や教育機関、行政機関で設けました。



(ナレーション)
今日は、各団体が学生などを対象に行った現場見学や出前講座など今年度の活動を報告しました。

なかでは、就職先に建設業を選ばない理由について企業側と学生が意見交換したことや、女子学生と女性技術者が交流した際、賃金格差や福利厚生を気にしていたことなどが報告されました。



(ナレーション)
協議会は、来年度も連携して取り組みを行うことを確認しました。

H30年度 建設界の担い手確保・育成推進協議会【第一回石川県部会】開催報告

- 6月11日、産学官が連携の「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会【第1回石川県部会】」を開催し、各機関によるこれまでの取り組みと今年度計画されている現場見学会や就職説明会等の活動予定について紹介、さらに現状の課題等に関する意見交換を行いました。
- 参加機関からは、「離職してしまう理由としては職場の中で同世代がいないことによるコミュニケーションの問題が大きい」「新技術の導入により“この業界には明るい未来がある”ということを現場見学会などを通じて示すことが重要」といった様々な課題、意見が寄せられました。

開催概要

【日時】平成30年6月11日（月）10:00～11:45

【開催地】金沢河川国道事務所 会議室

【構成機関】

【行政】北陸地整建政部、金沢河川国道事務所、石川労働局、石川県土木部、石川県教育委員会

【建設産業】日建連北陸支部、石川県建設業協会、道建協北陸支部、建設コンサルツ協会北陸支部、
石川県測量設計業協会、石川県地質業協会

【教育】金沢大学、金沢工業大学、石川県立大学、石川高専、金沢市工高、石川県立羽咋工高、
小松工高、翠星高校

会議の主な発言要旨

- ◆ せっかくこの業界に入っても3年で3～5割が離職してしまうといわれる。離職の原因としてはコミュニケーションの問題が大きい。同世代の先輩がいないため相談もできず孤立化し離れていく。これには官公庁からの工事発注を継続的に行うことで、企業側も継続的・計画的に採用可能となる。5年経ったらこの先輩のようになっている、と自分の姿のイメージを見せられることが重要。
- ◆ 学生・生徒を対象とした現場見学会では、漠然と現場見学に行くことのないよう、その現場で何を見せたいか、見どころを明確にして説明するようしてもらいたい。
- ◆ 建設系の学科を選択してもらうためには保護者の理解が大きく、そのためにも“この業界には明るい未来がある”ということをアピールすることが重要である。i-constructionの推進など建設界が新しい技術をいち早く取り入れて見せる。今までの3kの改善というところも大切ではあるが、この業界には夢があると魅力を示すことが重要。

開催状況





建設工業新聞	朝刊	平成30年6月12日(火)	石川版
--------	----	---------------	-----

自身の将来、見える形に

建設界の担い手確保推進協議会

県部会

建設界の担い手確保対策について県内の建設関係団体、教育機関、行政機関らが一堂に会して話し合った。北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会(石川県部会)が11日、同事務所内で開かれた。

この中で、石川労働局が示した建設分野の労働力受給状況によると、「18年3月新規高等学校卒業予定者の求人充足状況(17年12月末時点)は23・1%(求人885人に対して充足数204人)であることや、「新規高校卒業者の卒業3年後(14年3月新規卒業生)の離職率が46・3%に達している状況などが報告された。

工業高校や大学などの進路指導、労働局の参加した委員からは、「高校を卒業して入職しても、職場には父親以上の人がかり。互いにコミュニケーション



生徒、学生の入職促進策について話し合った担い手確保・育成推進協議会

「1時期は建設業の生き残りをはかっていた」と、長続きしなかった。「職場に同世代がないのは厳しい。先輩の姿を見て5年後、10年後の自分自身の姿がイメージできなくなるような環境を整えない」といった問題提起がなされたほか、「コンクリートから入へのスロークリートを打ち出した民間企業が打ち出された民権関係の募集定員80人に対して希望者が40人と定員割れをしたことがあ

る」「1時期は建設業の生き残りをはかっていた政策が打ち出されたり、働く人がいなくなると担い手育成といった政策が出たり、一貫性がない」といった行政側のちぐはぐさを指摘した委員も。このほか、「高校以前の早い段階でのアプローチが重要」「就職は保護者の意見が大きい。理解を得るためには休日数の確保は欠かせない」といった意見があった。

11日、金沢市の金沢河川国道事務所で開かれた。高卒で県内建設業に就職後3年以内に仕事を辞めた人の比率が2014年の卒業者で46・3%となり、全国平均の47・7%を下回ったことが報告された。

- 高卒で建設業就職3年以内離職46%
- 担い手協議会県部会
- 北陸建設界の担い手確保
- 育成推進協議会県部会は

建設業や行政、教育機関の担当者ら約20人が人材確保などを協議した。出席者からは「継続的に雇用しなければ世代間のコミュニケーションの溝は埋められない」「離職を減らすには労働条件の充実が求められる」といった意見が出た。

北陸地方整備局が22日、国家公務員技術職の志望者向けに現地見学会を開催することが報告された。国道の拡幅工事、金沢港の岸壁耐震化などの現場を回る。

北國新聞	朝刊	平成30年6月12日(火)
------	----	---------------

H30年度 建設界の担い手確保・育成推進協議会【第二回石川県部会】開催報告

- 12月17日、産学官が連携の「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会【第2回石川県部会】」を開催し、現場見学会や就職説明会等の各機関による今年度の取り組みと現状の課題、さらにそれらを踏まえた今後の活動方針等に関して意見交換を行いました。
- 参加機関からは、「就職先が製造業に流れてしまった。」「離職防止には“やりがい”を実感してもらうことが重要である。」「生徒、教員には、建設業に携わるプライド、気概を持って就職してもらうよう指導している。今後とも互いに協力をお願いしたい。」といった様々な課題、意見が寄せられました。
- 事務局から、離職防止や入職促進のアイデアを就職して間もない若手職員から募る「アンケート調査」について提案し、石川県部会の取り組みとして実施することを確認しました。（1月中旬までに実施）

開催概要

【日時】平成30年12月17日（月）10:00～11:45

【開催地】金沢河川国道事務所 会議室

【構成機関】

【行政】北陸地整建政部、金沢河川国道事務所、石川労働局、石川県土木部、石川県教育委員会

【建設産業】日建連北陸支部、石川県建設業協会、道建協北陸支部、建設コンサルツ協会北陸支部、石川県測量設計業協会、石川県地質業協会

【教育】金沢大学、金沢工業大学、石川県立大学、石川高専、金沢市工高、石川県立羽咋工高、小松工高、翠星高校

会議の主な発言要旨

- ◆ 生徒、教員には、建設業に携わるプライド、気概を持って就職してもらうよう指導している。そういう気もなく、せっかく就職して育ててもらっても2～3年で離職してしまうようだと言った企業側にも大きな損失、迷惑を掛ける。
- ◆ 土木科の生徒が建設関係に就職してもらうため、今年から建設業協会の説明会に保護者も加えて案内した。来年からは1年生も対象として参加させる予定。
- ◆ 現場技術者に対して以前に行ったアンケートで「辞めなくなったことはあるか」との問いに“6割の人がある”と答えているが、「なぜ辞めずに残ったのか」というと“やりがいがある”と答えている。離職防止には、やりがいを実感してもらうことが重要である。

開催状況





建設工業新聞	朝刊	平成30年12月19日(水)	石川版	P. 3
--------	----	----------------	-----	------

「(週休二日制は) 不足が進む建設界への就職した生徒がものすごく気兼ねだ。先輩が一生懸命に働いていて、自分にたばかり休んで申し訳ないという気持ちがあるようだ。」(建設教諭、土木科の生徒へも)インターネットで逐一、製造業の情報が入っている。製造業はこんな姿の中で、暑い中で仕事をしつづけている。状況としてはキツい部分がある。17日開かれた「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会石川県部会」(部会長・山田哲也北陸地方整備局金沢河川国道事務所長)の18年度第2回会合の席上、公立の工業系高等学校の校長や進路指導の担当教諭は、現役の生徒や卒業生の調の内を率直に伝えた。



工業系高等学校の校長や進路指導の担当教諭が生徒、卒業生の率直な思いを伝えた協議会

離職防止へ対策強化を

建設界担い手協、高校教諭が提案

7%であることを報告した。このほか、協議会として建設界で働く30歳程度の若手を対象に離職防止や入職促進に向けたアンケートを実施することなどを決めた。

意見交換で、工業系高等学校の校長や進路指導担当教諭は、建設業側が賃上げや週休二日制に積極的に取り組

待遇、休日数は高く評価

けた取り組を紹介した。その一方、「卒業生との意見交換会やOGが現場の仕事内容について毎朝、職人さんが来る前に準備をして、午後5時に終われば次の日の準備をする」と説明してくれた。私自身もそれは当然と思うが、それを当然と思わ

ない保護者も生徒がいるのも現実」、「初任給は高かったが、3年も4年も経つとも給料がかわらない」といって辞めていった卒業生もいる」と指摘。その上で「大きな投資をした上で離職されるのは企業側も痛手。協議会としては就職セミナーで時間を費やすよりは離職しないようにするための方法を考えたほうがいいのでは」と提案していた。

県内の高卒就職者の3年後の離職率は、製造業が28.4%、全産業平均が36.4%なのに対して、建設業は42.7%と2人に1人が3年以内に辞めていく計算だ。

他産業との人材争奪戦が激化する中、建設界においては入職促進と併行して離職を防ぐための対策が求められている。

不足が進む建設界への入職対策について県内の建設関係団体、教育機関、行政機関らが一堂に会して定期的に話し合っている。

この日の会合で、県土木部の担当者は、今年3月末における高卒

の建設業就業者数278人のうち、非建設業(普通科など)が192人と約6.6%に上ったことを紹介し、「普通科高校への働き掛けも重要」とした。

石川労働局の担当者は、建設業における19

年3月の新規高等学校卒業予定者の求人充足状況18年10月末現在(求人充足率)が15.3%に落ちたことを報告した。

3年後(15年3月)新規卒業生の離職率が42

んでいることを高く評価し、「1年生の時から建設業に対してのプライドを育てて指導している」、「生徒だけでなく保護者に向けても意見交換会への参加を呼びかけている」と学校における入職に向

ない保護者も生徒がいるのも現実」、「初任給は高かったが、3年も4年も経つとも給料がかわらない」といって辞めていった卒業生もいる」と指摘。その上で「大きな投資をした上で離職されるのは企業側も痛手。協議会としては就職セミナーで時間を費やすよりは離職しないようにするための方法を考えたほうがいいのでは」と提案していた。

若手社員にアンケートへ

建設界の担い手協議会(県部会)

離職防止対策など

建設界の入職対策などについて話し合う「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会石川県部会」(部会長・山田哲也北陸地方整備局金沢河川国道事務所長)の18年度第2回目の会合が17日、同事務所で開かれ、建設界で働く30歳程度の若手を対象に離職防止や入職促進に向けたアイデアを

募集アンケートを実施することなどを申し合わせた。

同部会は、県内の建設関係団体、教育機関、行政機関らで構成し、14年10月の設置後、定期的に意見交換を重ねている。

この日、石川労働局の担当者から、建設業における19年3月の新規高等学校卒業予定者の求人充足

状況(18年10月末現在)が求人充足率15.3%に落ちたことを報告された。

実施が決まった、若手へのアンケートは、建設業協会やコンサルタンツ協会、測量設計業協会、

金沢河川国道事務所らの社員、職員を対象とし、率直な意見を求めるために無記名で行う。懸念事項は「若手が離職したくなる理由とその対策は」、「不安なく就職してもらうために望ましい情報やイベント、機会は」、「普通

通高校や中学校の生徒、その保護者への効果的な説明、イベントは」などとする。

出席した工業系高校の就職担当教諭からは卒業生が数年で離職する理由に関して「インターネット時代となり、他業種の情報がいり入り交錯するのは」との指摘があった。

建設工業新聞	朝刊	平成30年12月19日(水)	石川版	P. 2
--------	----	----------------	-----	------



建設界への入職対策などについて関係者が話し合った協議会